

“鮮度一番！”

No.173

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / ひとことコラム
- 1～3 / 運営委員会で話し合われたこと
- 3～4 / 「ちょこっと能楽話」第7回
- 4～6 / 講演会「新島八重の生涯に見る近代日本」
- 6 / お知らせ 公開講座「江戸時代庶民史 ～結婚・離婚・密通～」
- 6 / " 映画「渡されたバトン さよなら原発」
- 6 / 編集後記

・・・ひとことコラム・・・ 休暇でのこと

H.Y

7月、東北を旅した。私にとっては「介護休暇」というべきか、旅が一番の気分転換で、4日間、家事、雑事から解放された。震災被災地にも行きたいということもあった。秋田の山奥の温泉で出会った方の言葉にずんときた。「どちらから」との問いに「福島の相馬です。でも本当は南相馬市です。南相馬から全国に避難しているけれど、自分の所に帰れと言われたり、嫌われているから」と「そんなこと…」とこちらは絶句。心では応援しているつもりでも何もできていない。「どうぞ気をつけてお帰りください」としか言えなかった。

東北の人たちは優しくかった。いろいろをまとめて楽しんだけれど、考えたこともあった。復興はまだまだ道遠しの場所も、また表面は何もなかったように見えたりもする。しかし、あれから日本社会は大きく変わらなければならないはずだった。今も、これからも転換点にあるのだと改めて思う。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成25年8月7日(水)(AM9:30～11:30)

場 所 男女共同参画センター

暑い夏・・・動きはゆっくりとペースを落として体を労わってください。

そして、水分補給と言いつくしてアルコールの飲み過ぎにも注意をしましょう！ハイ、私 (>_<) 次回の運営委員会は、9月4日(水)9:30～男女共同参画センターです。どなたでもおいで下さい。

1. 「出前講座」について

男女共同参画社会を目指して実施される出前講座の開催日時が、決まりました！公開講座ですので、お友達ご近所の皆様どなたでも誘い合わせておいでください。とても面白い講座のようです。

日 時：10月12日(土)午後3時～5時

会 場：三条東公民館

テーマ：女と男のクロスロードゲーム ～Yes or No あなたはどっち？～

講 師：Assistation 代表 立松有美さん

参 加：無料

※講座終了後、懇親会(実費)を実施しますので、ご参加をお待ちしています。

2. 審議会等について

三条市介護保険運営協議会報告

安室 久恵

7月12日(金)、東公民館において平成25年度最初の介護保険運営協議会が開かれた。最初に委員に委嘱状が交付され、その後の議題は、

- (1) 会長および会長職務代行者の選任
- (2) 部会構成および部会委員の指名
- (3) 平成25年度三条市介護保険運営協議会の審議計画

以上の審議で、各職務者が決定し、今年度4回の運営協議会の日程が了承された。

この後、地域包括支援センター運営部会、地域密着型サービス運営部会、計画運営部会に分かれ、各部会長、職務代理者の選任と今年度の審議計画を話し合った。

私は、引き続き公募委員として、地域包括支援センター運営部会と計画運営部会を兼ねる。任期は2年。

3. 燕三条エフエム放送(ラジオは～と76.8MHz)“ワイワイ女性ひろば”

- 本放送 毎週木曜日 11:30～12:00
- 再放送 毎週水曜日 19:30～20:00

8月のテーマ「下田郷・歴史と文化の旅」

- ◆1週目・・・下田郷を楽しむ その1
 - ◆2週目・・・下田郷を楽しむ その2
- 1・2週目のメンバー

- ・羽賀吉昭(諸橋轍次記念館館長)
- ・勝山百合(三条市生涯学習課文化財係)
- ・野崎ミチコ
- ・田辺とも子

- ◆3週目・・・下田郷・魅せる景色
- ◆4週目・・・下田郷・魅せられる食
- ◆5週目・・・まだまだ深いぞ下田郷

3・4・5週目のメンバー

- ・山田宏高（有限会社籐兵衛工房代表取締役）
- ・宮田志保（三条市生涯学習課文化財係）
- ・野崎ミチコ　　・田辺とも子

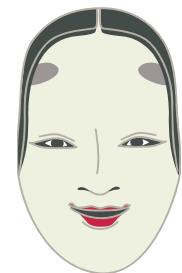
今年は、諸橋轍次博士の生誕130年にあたるとのことで、記念館では、様々な企画が行われています。1・2週は、諸橋轍次記念館館長と、縄文女子の勝山さんをゲストに、今後予定される催し等々についてお聞きしました。3・4・5週は、下田郷を象徴する粟ヶ岳のお気に入りビューポイントや、そこに住み暮らす人ならではの食に関する話、祭りなど、歴史と文化満載のおしゃべりです。どうぞお聴きください。（田辺）

4. その他

来年の4月には市議会議員、10月には市長選挙が行われるという事で三条市の現状について話し合いました。また、映画「渡されたバトン さよなら原発」の上映にからんで、私たちが今まで原子力発電について無関心であったことへの反省等ができました。

ちよこっと能楽話 第7回

高野物狂 川瀬弓子



「高野物狂（こうやものぐるい）」をご紹介します。

「物狂」については以前に説明しました。やはり笹の枝を持っていますが文を結びつけてあります。主人公となるシテは面をつけていません。直面（ひためん）といい能楽師の顔そのままです。

この物語は父子の関係も上回るほどの主従の物語です。

舞台はかの有名な高野山、季節は春です。常陸の国の平松殿は春満（しゅんみつ）という幼い一人子を残し亡くなりましたが、いまわの際に家臣高師四郎（たかしのしろう）にその行く末を託しました。ところが春満は世をはかなみ文を残したまま遁世し行方知れずになってしまいます。四郎は幼主を失い悲嘆やるかたなく遂に文つけの笹を持ち物狂となりさまよい歩き、ついに紀伊国高野山に辿り着きます。春満は高野山で修行をしていましたが迷いこんできた物狂が自分を捜し求めてきた四郎であることがわかり互いに名乗りあい喜びます。その後は四郎も出家し「主従諸共に入り定まれる高野の山で仏に仕えつつ清く尊い後生を送る身となった」とあります。

おきまりの邂逅の場面です。声に出して詠んでみてください。高野山の僧「これは不思議の機縁かな。さてさておことの国はいづくぞ」四郎「常陸の国筑波の里」僧「父の名字は」春満「平松のなにがし」僧「おことの名をば」四郎「高師の四郎」僧「いずれも真か」春満と四郎「さんぞうろう」めでたしめでたし、となります。

この物語の舞台は日本のみならず世界に冠たる霊地「入り定まれる高野山」です。詞章に「深々（しんしん）たる奥の院。深山鴉（みやまがらす）の声さびて」というところがあります。高野山に行かれた方はその貴く気高いその雰囲気は想像できることでしょう。

私は深山鴉が気になりました。700年前の日本にいた深山鴉は今もいるのでしょうか。

文一総合出版「声が聞こえる野鳥図鑑」をみると、いました。全長47センチ、九州から本州にかけて11月頃数百から数千羽の大群で渡ってくるそうです。鳴き声はしわがれ声で「ガー」と鳴く、とありました。まさに「深山鶺鴒の声さびて」でした。

ちなみに花鳥風月を素材にした謡曲の世界で鳥類を扱った曲がどのくらいあるかという雑誌「宝生」が第18号で「特集謡曲鳥類図鑑」をまとめていました。題名になっている名曲としては「鶺鴒」と「善知鳥（うとう）」、次に「鶺鴒飼」「雲雀山」「鶺鴒（おうむ）小町」「鶺鴒」「鳥追」があります。また曲の中に登場するものとしては「鶺鴒」「鳳凰（ほうおう）（中国神話上の霊鳥）」「都鳥（ユリカモメ）」「ほととぎす」「鶺鴒（ぬえ）（トラツグミ）」「鶺鴒（おしどり）」「迦陵頻伽（かりょうびんが）（極楽浄土に住む上半身が女性下半身が鳥の美声の持ち主）」「鶺鴒（かささぎ）」「鶺鴒」などです。

現在でもおなじみの鳥たちですが字が難しいですね。打てますが書けません。昔の人は文字一つとっても博識でした。心の余裕すら感じます。

本日はここまでとさせていただきます。

6月23日(日)新潟ユニゾンプラザで開かれた「にいがた女と男フェスティバル」の講演内容を(公)新潟県女性財団の許可を得て、新潟県女性センター情報 No. 94 より掲載します。

講演会「新島八重の生涯に見る近代日本」

講師：佐伯順子さん（同志社大学大学院教授）

私は、長年、明治の女性史について研究して参りました。この度、思いがけず同志社大学ゆかりの新島八重が、大河ドラマの主人公となり、不思議なご縁を感じています。

明治時代は江戸時代から明治新政府になった歴史の大きな激動の時代でした。その中で、女性の視点から語られた明治史というのは多くありません。今回のドラマでは、明治の歴史を女性の視点から、かつ、勝ち組の薩長ではなく敗北した会津の視点から伝えようという試みをしています。

■明治時代と男女平等の動き

明治時代は、士農工商という身分制度から四民平等に移り、男女平等という考え方が生まれた画期的な時代です。

明治政府は学制を明治5年に発布し、男女は平等に教育を受けるべきであるということ打ち出しました。ドラマの中でも、会津の日新館で学びたいと思っていた八重は、女子であることで学ぶことができず、もどかしい思いをしていました。それではいけないということで明治政府は教育の男女平等を打ち出しました。

2つ目は「人権」意識の台頭です。明治5年に娼妓解放令が出されています。女性が身体を売ることは、人権を侵害されているのだという考え方を明治政府は打ち出しました。何故、明治5年に娼妓解放令が出されたかということ、マリア・ルーズ号という外国船から清国のクーリー（奴隷）が逃げたのを日本政府が保護しました。マリア・ルーズ号側は自分の船から逃げ出した奴隷を日本政府が保護したのがあまりおもしろくない。「あなたの国には、娼妓という人権を侵害されている人たちがいるのではないか、それにも関わらずうちから逃げ出したクーリーを保護するのはどうか」というクレームをつけました。政府としては、日本は外国に対しても人権を守っている近代国家だということを明示するために娼妓解放令を出しました。

もう一つは、女性啓蒙の機運の高まりで、女性雑誌が明治時代に沢山発行されます。今の女性雑誌の楽しいイメージと違い、代表的なものである『女學雑誌』に「婦人の地位」ということが書かれており、日本が近代化するためには女性の地位をあげなくてはならないと真剣に議論している記事があります。また、配布資料にある薙刀をもっている女性は、大河ドラマで活躍してい

る会津の中野竹子。男性と平等に一生懸命戦った姿勢がすばらしいと、力強くたくましく生きる女性像が模範として女性雑誌に紹介されています。

■女性の社会的主張の弾圧と家父長の権限の増大

ところがこの先、明治時代は女性にとって開放的で生きやすい時代かということ、そうではありません。実は女性にとって差別的な状況が増えていったという事実がありました。

明治17年に出された町村会法では、選挙権は男子のみ。集会及政社法は、女性の政治活動を禁止。新聞紙条例では、女性が新聞や雑誌の編集発行人になることを禁止しました。そして、明治民法は家庭、プライベートの中の権利や自由を制限するものでした。明治政府は基本男性中心の政治制度を作り上げて女性を公的なことから排除するという動きがありました。

■“男装”する女性たち

幕末から明治にかけて新しい時代が始まったので、八重も期待したと思うのですが、生きづらい時代だったと思います。

八重は、戊辰戦争で亡くなった弟の形見の着物で男装して戦いました。これが彼女の注目される行為のひとつです。ほかにも男装して社会に出ようしたり、勉強しようとした女性たちが存在しました。なぜ男子の格好をしなければいけなかったのでしょうか。

明治10年代くらいの女性雑誌では、竹子さんのようなたくましい女性は褒められているのですが、後半になるにつれてだんだん抑圧されて、女性はおとなしく家庭的になりなさいという時代になります。男性と同じように社会貢献したいと思った女性たちは、男の格好をしなければならなかったのです。樋口一葉さんは日記の中に、「私も男の子として生まれたらもっと自由に生きられたのに（おのこならましかば）」というつぶやきを書いています。

■キリスト教の影響

八重の夫の襄は、国禁を犯してアメリカに渡るという大変大胆な男性でした。アメリカの東海岸のアーモスト大学でハーディ夫妻に世話になりながら勉強しました。そこでライフスタイルを含めて西洋文化を吸収し、男女平等な考え方を身に付けました。

明治の結婚を考える上で、キリスト教は大変重要な要素です。キリスト教に影響を受けた人たちは、実質的に男女平等の考え方を公的にもプライベートでも実現してきました。八重と襄、石阪美那子と北村透谷は恋愛結婚です。明治時代、16歳位が適齢期で、親や親戚が決めた人と結婚するのが一般的でした。恋愛結婚は本人同士の意思による結婚で、歴史的な意義もありました。

■日本女性の労働力の変化

現代の女性の労働力率の変化を示すグラフでM字型を描いているのは日本と韓国ぐらいです。なぜこういうカーブが生まれるのか？結婚・出産を機に仕事を辞める、戦後の日本の女性の働き方の特徴の源が、明治の後半から流れ続けて今にまで尾を引いているということがいえます。明治時代の女性は過渡期で、明治の新聞記事の中には、子どもがいて共稼ぎであることが自然で、働く母親を肯定する視点もみられます。

■今なぜ新島八重か？

なぜ八重をあらためて大河ドラマに取り上げる意味があるのか？

八重が生きた時代が不自由だったことを訴えることによって、女性も男性も生きやすい時代を作った方がいいということを行うためです。ドラマでは八重より兄の山本覚馬が活躍しています。脚本家の山本むつみさんにもっと八重の登場シーンを増やすようにという記事も目にしたことがあります。でも、無理をして出すよりは、同じ家に生まれても、こんなに人生が違ってやりたいこともできないということを見て頂きたいと思います。

■「良妻賢母」とは

良妻賢母というのは、単に家庭にいるという意味ではなく、多様な社会貢献も含むと再定義する必要があります。仕事をしていても、賢い母、よい妻にもなれます。逆に良夫賢父とも言ってしまうわけです。ドラマを見ていて面白いのは、現在の八重の夫である、川崎尚之助というのは、賢父という部分は無いにしても、八重の鉄砲に関する興味にも理解を示す夫。良夫賢父像を提示しようとしている意識があります。八重は強くたくましい女性でしたが、自分で自由に体を動かすことができなくなった兄を介護した大変心優しい女性で、介護の先駆者としても注目すべきで、家族の介護をしながら、自分の社会貢献をやりとした一般市民的な女性でした。今日、私が話した八重や明治女性の生き方が、今を生きる私たちに何らかの形で参考になればうれしいと思います。

【お知らせ】

◆三条地名研究会 公開講座のお知らせ

『江戸時代庶民史 ～結婚・離婚・密通～』

- 日 時 9月7日(土) 午後3時～5時 ●講 師 金森敦子氏(作家)
- 会 場 三条市中央公民館 3階 講義室 ●参加費 無料(申込不要)
- 問合せ 三条市立図書館 TEL0256-32-0657 FAX0256-32-0632

◆“原発NO!”の映画のお知らせ

「渡されたバトン さよなら原発」

新潟巻町(現・新潟市西蒲区)で原発建設をめぐる、四半世紀という長年にわたるたたかいで、住民投票を実施し、原発建設を阻止した実話をベースに映画化、原発の是非を問いかけます。

- 日 時 9月16日(月・祝) 1回目 10:30～12:30
2回目 13:30～15:30
3回目 19:00～21:00(開場は30分前)
- 会 場 三条市中央公民館 大ホール
- 前売り券 1,000円(当日1,500円) 高校生以下 800円
- チケット取扱所 ・三条市総合福祉センター ・野島書店 ・みずすまし
・イオン県央店サービスカウンター
- 主 催 「渡されたバトン」上映実行委員会
- 連絡先 島田(090-5553-1218) 内藤(090-7277-1901) 野島(090-9632-5352)

編集後記：猛暑お見舞い申し上げます。今号は、この猛暑を吹き飛ばすくらいの中身の濃い、情報てんこ盛りの内容です。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>